

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	学校法人 藤田学園岡崎医療センター	階数	地上8階
建設地	愛知県岡崎市針崎町	構造	S造
用途地域	市街化区域	平均居住人員	1,000 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年1月 予定	評価の実施日	2018年3月30日
敷地面積	29,370 m ²	作成者	株式会社 大林組
建築面積	8,685 m ²	確認日	
延床面積	37,664 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

- ①参照値: 100%
- ②建築物の取組み: 93%
- ③上記+②以外の: 93%
- ④上記+: 93%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

音環境	2.6
温熱環境	3.9
光・視環境	3.1
空気質環境	4.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

機能性	3.4
耐用性	3.5
対応性	3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性・	3.5

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

建物外皮の	4.1
自然エネ	4.0
設備システ	2.3
効率的	4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

水資源	3.2
非再生材料の	3.7
汚染物質	3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

地球温暖化	3.2
地域環境	3.0
周辺環境	3.0

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

3.2

③敷地内の緑化

3.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)

27.2 %

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)

5.9 %

②資源の有効活用

3.6

④地域材の活用

2.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

クロマツ(街道の松並木)

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部 建物全体・共用部 建物全体・共用部 建物全体・共用部 建物全体・共用部 建物全体・共用部 建物全体・共用部							居室・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質											3.4
Q1 室内環境											3.5
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル				2.6	0.15	0.40	2.6	1.00	2.6	1.00	
1.2 遮音				3.0	0.40		3.0	0.40	3.0	0.40	
1 開口部遮音性能				-	-		3.0	0.30	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能				3.0	1.00		3.0	0.30	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-		3.0	0.20	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-		3.0	0.20	3.0	0.20	
1.3 吸音				1.0	0.20		1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境											
2.1 室温制御				3.9	0.35	3.4	3.4	1.00	3.9	0.35	
1 室温			[共用部]面積加重平均レベル:3.93 [病室]夏期26℃、冬期24℃	4.1	0.50	4.3	4.3	0.50	4.1	0.50	
2 外皮性能			[U値]外壁:1.04、屋根:0.64、床:1.15、窓:3.53 [SC換算値]窓:0.45 面積加重平均レベル:4.72	4.0	0.38		4.0	0.38	4.0	0.38	
3 ゾーン別制御性能			負荷系統に応じたゾーニング+FCU4管式とゾーン2管式併用 加湿、除湿機能を有した機器を使用する	4.7	0.25		4.7	0.25	4.7	0.25	
2.2 湿度制御				4.0	0.38						
2.3 空調方式				5.0	0.20		5.0	0.20	5.0	0.20	
3 光・視環境				3.0	0.30		1.0	0.30	3.0	0.30	
3.1 昼光利用				3.0	0.25	3.9	3.9	1.00	3.0	0.25	
1 昼光率			[病室]昼光率:2.50	3.0	0.43	4.2	4.2	0.30	3.0	0.43	
2 方位別開口				-	-		5.0	0.60	-	-	
3 昼光利用設備				3.0	1.00		3.0	0.40	3.0	1.00	
3.2 グレア対策				-	-		5.0	0.30	-	-	
1 昼光制御			[病室]ブラインド+バルコニー庇	-	-		5.0	1.00	-	-	
3.3 照度				3.0	0.21		3.0	0.15	3.0	0.21	
3.4 照明制御				3.0	0.36		3.0	0.25	3.0	0.36	
4 空気環境				4.0	0.25	3.8	3.8	1.00	4.0	0.25	
4.1 発生源対策				4.0	0.50	4.0	4.0	0.63	4.0	0.50	
1 化学汚染物質			建築材料は規制対象外若しくは告示対象外を使用	4.0	1.00		4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気				3.5	0.30	3.6	3.6	0.38	3.5	0.30	
1 換気量			[病室]必要換気量に対して2倍の換気量で設計	3.1	0.50		5.0	0.33	3.1	0.50	
2 自然換気性能				-	-		1.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮			[共用部]給気と排気ガラリは十分な距離を確保する [病室]給気と排気ガラリは十分な距離を確保する且つ異なる方位とする	4.0	0.50		5.0	0.33	4.0	0.50	
4.3 運用管理				5.0	0.20				5.0	0.20	
1 CO ₂ の監視				-	-				-	-	
2 喫煙の制御			施設内禁煙	5.0	1.00				5.0	1.00	
Q2 サービス性能											3.5
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ				3.3	0.40	4.4	4.4	1.00	3.3	0.40	
1 広さ・収納性			[病室]1床室:約16㎡、4床室:凡そ40㎡	3.0	0.40	5.0	5.0	0.60	3.0	0.40	
2 高度情報通信設備対応				-	-		5.0	1.00	-	-	
3 バリアフリー計画		独自		3.0	1.00				3.0	1.00	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.5	3.5	0.40	3.0	0.30	
1 広さ感・景観(天井高)			[病室]天井高:2.60m	-	-		4.0	0.50	-	-	
2 リフレッシュスペース				-	-				-	-	
3 内装計画				3.0	1.00		3.0	0.50	3.0	1.00	
1.3 維持管理				4.0	0.30				4.0	0.30	
1 維持管理に配慮した設計			防汚性の高い仕上げ等、維持管理に配慮した設計とする	5.0	0.50				5.0	0.50	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50				3.0	0.50	
2 耐用性・信頼性											3.5
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.4	0.48				3.4	0.48	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			建物全体を免震層で保護する	3.0	0.80				3.0	0.80	
2 免震・制震・制振性能				5.0	0.20				5.0	0.20	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.33				3.2	0.33	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23				3.0	0.23	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②		3.0	0.23				3.0	0.23	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09				3.0	0.09	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			屋外露出ダクト、厨房排気ダクトはガルバリウム鋼板とする	4.0	0.08				4.0	0.08	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			冷温水管:SG(D) 排水管:VL(B)、給湯:SUS(C)	4.0	0.15				4.0	0.15	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23				3.0	0.23	
2.4 信頼性				4.4	0.19				4.4	0.19	
1 空調・換気設備			熱源種の二重化、配管の防振 便器、水栓はグリーン購入法適合の節水器具を使用 配管は可能な限り系統を分割 病院地下に排水貯留槽を設ける 雑用水は便所の洗浄水、屋外散水等を使用 受水槽に水栓を設置	4.0	0.20				4.0	0.20	
2 給排水・衛生設備				5.0	0.20				5.0	0.20	
3 電気設備			非常用発電設備の設置 電源設備、精密機械を地上部に設置 高圧2回線受電、異なる変電所からの引込の二重化(予備電源方式) 設備耐震クラスSランク	5.0	0.20				5.0	0.20	
4 機械・配管支持方法				5.0	0.20				5.0	0.20	
5 通信・情報設備				3.0	0.20				3.0	0.20	

3 対応性・更新性				3.6	0.29	3.8	3.8	1.00	3.6
3.1 空間のゆとり				4.2	0.31	4.6	4.6	-	0.50
1 階高のゆとり			基準階階高:3.90m	5.0	0.60		5.0	-	0.60
2 空間の形状・自由さ			【病室】壁長さ比率:0.26	3.0	0.40		4.0	-	0.40
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31		3.0	-	0.50
3.3 設備の更新性				3.6	0.38			-	-
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			-	-
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	-
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	-
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	-
5 設備機器の更新性			建物機能を維持した状態で更新が可能な計画とする	5.0	0.22			-	-
6 バックアップスペースの確保			更新時に配慮した計画とする	4.0	0.22			-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30			-	3.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		3.0	0.30			-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30			-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	岡崎市に由来する木々を植栽する	4.0	0.50			-	-
3.2 敷地内温暖環境の向上				3.0	0.50			-	-
LR 建築物の環境負荷低減性									3.4
LR1 エネルギー					0.40				3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			断熱材による熱負荷の抑制	4.1	0.30			-	4.1
2 自然エネルギー利用			熱源機械室の換気クールビット(免震層)利用により換気動力低減	4.0	0.20			-	4.0
3 設備システムの高効率化				2.3	0.30			-	2.3
4 効率的運用				4.0	0.20			-	4.0
集合住宅以外の評価				4.0	1.00			-	-
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	-
4.2 運用管理体制			エネルギーサービス事業としてコミッションングを計画	5.0	0.50			-	-
集合住宅の評価				-	-			-	-
4.1 モニタリング				-	-			-	-
4.2 運用管理体制				-	-			-	-
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.6
1 水資源保護				3.2	0.15			-	3.2
1.1 節水				3.0	0.40			-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.3	0.60			-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無			RO排水を再利用する	4.0	0.33			-	-
2 非再生性資源の使用量削減				3.7	0.63			-	3.7
2.1 材料使用量の削減		②	コンクリート強度:Fc=36N/mm ² 、鉄筋強度:SD390 鉄骨:BCP325、SM490A 冷間成形形鋼管	4.0	0.07			-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		独自		3.0	0.20			-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	ウッドデッキ(マリンバ)、フリーアクセスフロア(ニテラスシグマフロ)	4.0	0.20			-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材		独自		3.0	0.05			-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体+軽量鉄骨+下地、二重天井により躯体と下地の別が容易	5.0	0.24			-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.4	0.22			-	3.4
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.6	0.68			-	-
1 消火剤			窒素ガス消火設備を使用	4.0	0.33			-	-
2 発泡剤(断熱材等)			ODP:0、GWP:極小(炭化水素系発泡剤)	4.0	0.33			-	-
3 冷媒				3.0	0.33			-	-
LR3 敷地外環境					0.30				3.0
1 地球温暖化への配慮		①	運用時のCO2排出量の抑制(排出率:94%)	3.2	0.33			-	3.2
2 地域環境への配慮				3.0	0.33			-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	-
2.2 温暖環境悪化の改善				3.0	0.50			-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25			-	-
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	-
3 交通負荷抑制		独自	駐輪場、駐車場の確保 目的に応じた駐車施設、経路の確保	4.0	0.25			-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			-	-
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	-
1 騒音		独自		3.0	0.50			-	-
2 振動		独自		3.0	0.50			-	-
3 悪臭				-	-			-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	-
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	-
2 砂塵の抑制				-	-			-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	-
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

学校法人 藤田学園岡崎医療センター新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	
② 資源の有効活用				3.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.5	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:27.2%/建物緑化:5.9%
④ 地域材の活用				2.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	クロマツ(街道の松並木)

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 学校法人 藤田学園岡崎医

計画上の配慮事項	
総合	地域に利用者に身近で室の高い救急医療を提供するため、患者が利用し易く、スタッフが働きやすい病院とする。
Q1 室内環境	建物の熱負荷を抑制、健全な空気を供給する計画として、快適な室内環境とする。
Q2 サービス性能	病室はゆとりある広々とした空間とし、快適性とともにも利便性にも配慮した計画とする。災害時にも医療継続を支える計画とする。
Q3 室外環境(敷地内)	外構及び建物緑化を行い、緑あふれる景観を形成し、地域に溶け込む緑の医療センターを計画する。
LR1 エネルギー	断熱による熱負荷を抑制し、空調エネルギー消費量を削減する。
LR2 資源・マテリアル	リサイクル材を使用、強度の高い構造材を使用し材料使用量を削減することで環境に配慮した計画とする。
LR3 敷地外環境	駐輪場スペースを設け、交通負荷を抑制する。又、目的に応じた駐車場の経路を確保し、緊急時にも対応できる計画とする。
その他	